

## 第1 今年度の取組と自己評価

### 1 伸びる学習指導

#### (1) 取組

基礎・基本の定着を図り、学習意欲を高めることを目指し、基礎から発展までのきめ細かな学習指導を少人数・習熟度別授業等を有効に活用し、個に応じた指導を丁寧に行う。

#### (2) 成果

夏季休業期間に講習を24講座開講した。英語検定2級には14名を合格させることができ、日本語能力検定N3以上に、在京外国人生徒42名が合格した。進路決定率88.4%、学校評価アンケートの生徒授業満足度の肯定的評価は83%であったが昨年度の85%を下回った。在京外国人生徒の取り出し授業や補習等による対応を昨年度同様に充実させることができた。図書館の年間生徒貸出数1922冊となり、昨年度の2210冊より下回ってしまった。

#### (3) 自己評価

生徒の授業満足度の肯定的回答は全体で83%であり、昨年度の85%よりも若干減少した。保護者の肯定的回答は、昨年度の79%から増加し、84%となった。課題や小テストを課すことによって、家庭学習時間の確保を目指した。家庭学習に積極的に取り組んでいる生徒は、昨年度48%、今年度も48%であった。今後も引き続き家庭学習時間増加の方策が考えていく。

### 2 かなう進路指導

#### (1) 取組

3年間のキャリア教育全体計画をもとに学年ごとの指導の重点を設定し、丁寧な進路指導を行った。

#### (2) 成果

昨年度に引き続き、1年生から体験的活動、課題学習、ガイダンスを通して、生徒が自らの進路について主体的に取り組む指導を行った。保護者対象進路ガイダンス、推薦入試や就職に向けた模擬面接、面接週間の設定、実力テストの結果分析を行い、適切な進路指導を行った。3学年生徒の卒業時の進路決定者は88.4%であった。多様な生徒の進路に対応した進路指導の充実と進学実績の向上を図るために、進路部と学年が連携し継続的に進路説明会を実施した。外部講師による進路ガイダンス、模試面接等も実施した。看護、介護、教育、保育関係への上級学校への進学者は昨年度の48名を下回り、32名であった。ただ、就職者14名のうち、昨年より多い4名が公務員に合格した。

#### (3) 自己評価

進路部と各学年が協力し、3年間の指導計画に沿った指導を行うことが出来た。「学校は生徒の適性や進路希望に応じた指導を積極的に行っている」という問いに対して、昨年より多い85%の生徒が肯定的な回答をしている。今後も望ましい勤労観、職業観を身につけ、生徒自身が主体的に進路を考え選択していくことができるキャリア教育が重要である。また、進路部を中心とし、拡大進路部会を開くなど各学年と協調して、意図的・計画的に進路指導を実施することができた。今年度の大学合格者数は、延べ282名であった。その内訳としては、指定校による学校推薦が24%、公募による学校推薦が10%、総合型選抜が28%となった。総合型選抜による進学が昨年度より増加しており、より計画的な探究学習への取り組みが必要である。

### 3 安心の生活指導

#### (1) 取組

家庭及び地域と連携して、生徒が安心、安全に生活できるような生活指導を行う。

#### (1) 成果

遅刻防止、服装などのみだしなみ指導を計画的・継続的に実施した。毎朝、校門、昇降口付近に生徒部教員を中心に自転車指導を含めた交通安全指導を実施した。登下校の自転車運転のマナー・モラル指導を行った。ヘルメット装着率は年度の前半は高かったが、後半は低くなってしまった。

薬物乱用防止教室等のセーフティ教室やSNS府西ルールに基づく安全教育を実施した。年間を通して、いじめは確認できなかったが、SNS関係のトラブルには注意を払っていく必要がある。毎学期いじめアンケートを実施している。

(2) 自己評価

生活指導部の教員だけではなく、その他の多くの教職員が日頃から丁寧な生活指導を行ってきたが、生徒の生活指導に対しての評価は、昨年度 74%で肯定的な回答が少なかった。今年度は 80%に改善した。校則に対して疑問を持っている生徒、保護者が少なからずいると推測できる。今後も思いやりと規範意識を育成し、登下校の安全指導等も継続していく。毎年、服装などの身だしなみ指導は、生徒部を中心に教職員が協力して行い、一定の成果をあげている。

#### 4 燃える学校行事

(1) 取組

生徒が主体的、協働的活躍し、達成感・共感を得ることで、自己肯定感が高まる学校行事を実施する。

(2) 成果

体育祭、文化祭、後夜祭、合唱コンクールなどの行事を盛り上げることができた。特に文化祭では昨年度来校者数が 2247 名であったが、今年度は 3047 名に増加した。

(3) 自己評価

学校行事への生徒の肯定的回答は昨年の 82%から 95%に大幅に向上した。今後も学校の教育目標である「人間愛」「自由」「責任」の精神を養い、自己肯定感の向上に繋げていく。さらに学校行事において達成感・共感を高めるよう運営方法等を検討していく。

#### 5 輝く部活動

(1) 取組

心身を鍛え、学校に対する帰属意識や連帯・協働の精神を養う部活動を展開する。フェアプレーの精神、チームワーク、相手を思いやる心の育成を図る。文化・スポーツ等特別推薦を実施し、部活動の活性化を図る。

(2) 成果

全学年を通じた部活動加入率は 90%であった。主な結果は以下の通り。

女子ハンドボール部 春季都大会ベスト4、関東大会出場ベスト16、インターハイ予選3位  
国公立大会優勝、秋季大会ベスト4、冬季大会優勝

男子ハンドボール部 国公立大会優勝、冬季大会優勝

体操部 男子3年大会団体総合3位

合唱部 NHK全国学校音楽コンクール東京都本選銀賞受賞  
東京都合唱コンクール金賞受賞

吹奏楽部 東京都吹奏楽コンクール銀賞受賞

(3) 自己評価

部活動に満足しているという生徒の肯定的な回答は、昨年 74%で今年度は 78%であった。部活動は本校の特徴の一つであり、各教職員が適切に生徒への指導を行っている。練習の様子や結果報告などの対外的なアピールは、ホームページを活用して発信していく。

#### 6 健康づくりと体力向上・防災教育

(1) 取組

主体的で適切な健康観を育成し、総合的な生徒の基礎体力の向上を図る。地域と連携した防災訓練や年間4回の避難訓練を実施し、防災教育の充実を図る。

(2) 成果

スクールカウンセラーによる相談活動を行い、教育相談を充実させた。地域と連携した防災訓練や年間4回の避難訓練を実施した。

(3) 自己評価

スクールカウンセラー、養護教諭、担任、生徒部、管理職と連携をとりながら、生徒の悩みや問題行

についての解決に向けた対策をとることができた。近隣の消防署の協力を得て、地域と連携した防災訓練をして行った。

## 7 地域連携

### (1) 取組

近隣地域の諸機関・住民との交流活動を積極的に行い、地域との連携協力体制を確立する。

### (2) 成果

府中市制 70 周年記念式典に合唱部が参加した。近隣地域主催の西文まつり等の地域行事にもダンス部が参加し交流を深めた。

### (3) 自己評価

府中市主催の芸術祭に合唱部が参加するなどし、近隣地域の行事等に参加することができた。また、例年、吹奏楽部と合唱部が近隣のホールを借りて、定期演奏会を開催している。グラウンドを使用する部活動は地域清掃等のボランティア活動に取り組んでいる。

## 8 学校運営・その他

### (1) 取組

全教職員が一丸となって生徒・保護者・地域住民から信頼される学校運営を行う。海外学校間交流推進校の事業に取り組み、自己肯定感の向上に繋げる。

### (2) 成果

海外学校間交流推進校としてユタ州のブリガムヤング大学と文化交流を図った。昨年度に引き続き、多文化理解の一環として、マレーシア大使館と交流を行った。

### (3) 自己評価

今年度、創立 50 周年記念式典を立川市市民会館で適切に実施し、50 周年記念誌等も発行した。

#### 重点目標と本年度の数値

- 1 予習・復習等を前提とした授業により家庭での学習に積極的に取り組んでいるとする生徒全体の割合→48%
- 2 生徒が本に親しむ環境を整備し、図書館の本の年間貸出数→1922 冊
- 3 進路部と学年が連携した進路指導により生徒の進路指導満足度→88%
- 4 進路指導により卒業時の進路決定率→88.4%
- 5 地域中学校や地域住民の文化祭への来校者数→3043 人、昨年度の 2247 人を大きく上回る。
- 6 部活動加入率。→90.2%
- 7 学力による選抜の入学選抜応募倍率。→1.07 倍

### 第3 次年度以降の課題と対応策

#### 1 伸びる学習指導

家庭学習時間の増加、定着を図る。少人数授業、習熟度別授業を有効に活用し、学力の基礎・基本の定着を図る。予習復習を前提とした授業を行い、一人1台端末の有効活用をする。課題を計画的に課して、家庭学習を定着させるとともに、思考力、判断力、表現力の伸長を図る授業を行う。在京外国人生徒の支援を図るため、取り出し授業を継続し日本語指導員を増やしていく。

#### 2 かなう進路指導

生徒が主体的に考え、進路を選択する能力と望ましい職業観の育成。進路部と学年担任との拡大進路部会を定期的開催し情報の共有化を図る。生徒の進路希望を実現させるため、夏季休業中の講座充実と関係諸機関との連携強化。就職希望者の指導を充実させ、進路決定率を向上させる。

#### 3 安心の生活指導

安心、安全な学習環境の維持と生徒の規範意識を高める生活指導を行い、社会に適応できるモラル・マナーの育成をする。生徒の交通安全意識を高めるとともに、毎朝の学校付近で遅刻防止等の指導も継続的に行う。いじめ対策の推進及びスクールカウンセラーと連携した教育相談の充実。

#### 4 学校運営

サービス事故防止研修を定期的に行うことで、来年度サービス事故0、体罰0を目指していく。ライフ・ワーク・バランスの推進。管理職が適切な機会を捉えて、教職員への啓発及び研修を実施する。